

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.**

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 10-326306
 (43)Date of publication of application : 08.12.1998

(51)Int.Cl. G06F 17/60
 G06F 13/00

(21)Application number : 09-134722
 (22)Date of filing : 26.05.1997

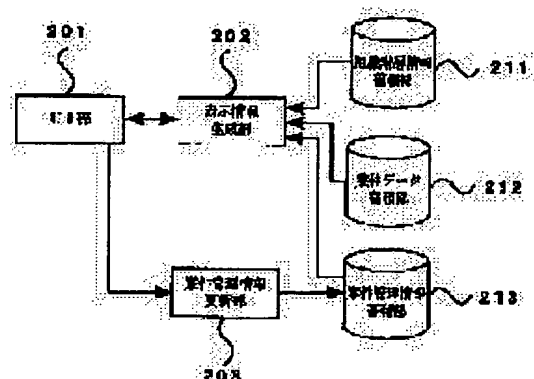
(71)Applicant : HITACHI LTD
 (72)Inventor : UEDA RYOICHI
 WATANABE TETSUYA
 KUDO YUTAKA
 SHIMABUKURO JUN
 KOIZUMI SHINOBU

(54) ITEM ALLOCATION SYSTEM

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To shorten the item processing time by making an item processing worker take over by himself the items which are allocated to his own post and its higher rank posts.

SOLUTION: Organization hierarchical information 211, item data 212 and item management information 213 are all stored in a storage device contained in a server computer. A user gives instructions to the server computer from a UI part 201 consisting of an interactive terminal via a network. The user's instructions are processed by a display information generation part 202 consisting of the server computer and an item management information updating part 203. An item processing worker takes over by himself the items allocated to his own post and its higher rank posts. Thus, the relevant item processing is quickly allocated to a proper worker. Meanwhile, a person in charge of every post allocates the item to his lower rank position or his follower. Accordingly, it's possible to prevent such a case where the items are not taken over by any worker and stay as they are.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2000 Japan Patent Office

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-326306

(43) 公開日 平成10年(1998)12月8日

(51) Int.Cl.⁶

G 0 6 F 17/60
13/00

識別記号

3 5 5

F I

G 0 6 F 15/21
13/00

Z

3 5 5

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 10 頁)

(21) 出願番号 特願平9-134722

(22) 出願日 平成9年(1997)5月26日

(71) 出願人 000005108

株式会社日立製作所

東京都千代田区神田駿河台四丁目6番地

(72) 発明者 植田 良一

神奈川県川崎市麻生区王禅寺1099番地 株

式会社日立製作所システム開発研究所内

(72) 発明者 渡辺 哲也

神奈川県川崎市麻生区王禅寺1099番地 株

式会社日立製作所システム開発研究所内

(72) 発明者 工藤 裕

神奈川県川崎市麻生区王禅寺1099番地 株

式会社日立製作所システム開発研究所内

(74) 代理人 弁理士 小川 勝男

最終頁に続く

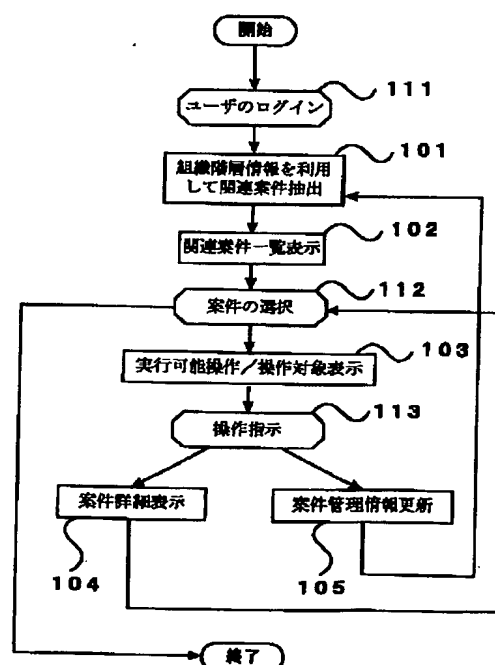
(54) 【発明の名称】 案件割り当て方式

(57) 【要約】

【課題】現在のワークフローシステムでは、案件の割り当て作業が特定の作業者に集中し、割り当て自体に時間がかかってしまうという問題点があった。また、案件を掲示板から各作業者が引き取る方式では、引き取り手のない案件がいつまでも滞留してしまうという問題点があった。

【解決手段】組織階層情報から作業者を特定し、該作業者の所属する部署、該作業者の上位部署、該作業者本人に割り当てられた案件を案件管理情報蓄積部から抽出する。該作業者が自部署または上位部署に割り当てられた案件を引き取る事を可能にする。また、該作業者が部署の責任者であった場合、該部署およびその上位部署に割り当てられた案件を下位部署または部下に割り当てる事を可能にする。

図1



【特許請求の範囲】

【請求項1】サーバ計算機および対話端末を有する情報処理装置において、案件を作業者に割り当てる案件割り当て方式であり、

入力装置から作業者IDを得るステップと、組織階層情報から該作業者を特定し、該作業者の所属する部署と該作業者の全ての上位部署と該作業者本人に割り当てられた案件を案件管理情報蓄積部から抽出するステップと、

前ステップで抽出された案件の一覧を対話端末上に表示するステップと、

該作業者が該案件一覧から案件を選択するステップと、該選択案件に対して実行可能な操作の一覧と、該操作の対象となる部署または作業者の一覧を対話端末上に表示するステップと、

該作業者が前ステップで表示された操作一覧から選択し、操作を指示するステップと、

該指示が該選択案件の詳細表示であった場合、該選択案件を案件データ蓄積部から検索し、該選択案件の詳細を対話端末に表示するステップと、

該指示が該選択案件の引き取り、または差し戻し、または割り当てであった場合、該選択案件に対応する該案件管理情報を該指示に従って更新するステップ、を有する事の特徴とする案件割り当て方式。

【請求項2】請求項1に記載のステップに加えて、各部署および各作業者に割り当てられている案件の総数を計算するステップを有し、

作業者が選択した案件に対して実行可能な操作の一覧と、該操作の対象となる部署または作業者を対話端末上に表示する際に、

単に部署名または作業者名を表示するだけでなく、該部署または該作業者に割り当てられている案件の総数も表示すること、を特徴とする案件割り当て方式。

【発明の詳細な説明】**【0001】**

【発明の属する技術分野】本発明は情報処理装置を用いた案件割り当てシステムに係り、複数の作業者によって分業がなされている作業プロセスにおいて、案件の処理を担当する作業者を決定する案件割当方式に関するものである。

【0002】また、本発明は人的プロセスの生産性と機能性を向上させることを目的とした計算機を媒体とした協調作業における作業効率の向上に関するものである。

【0003】

【従来の技術】前記案件割当方式に関連する従来技術として、次のような技術がある。

【0004】オペレーションズ・リサーチ1996年10月号pp.559-568「ワークフロー管理システムの有効性について」には、案件処理の流れをビジュアルに設定することが可能な製品として、株式会社日立製作所のGroupmax W

orkflowがあげられている。該製品では、条件分岐を用いて、特定の案件を特定の担当作業者に機械的に割り当てる事が可能である。また該担当作業者が、割り当てられた該案件の処理を行うことが困難であると判断した場合、割り当て部署に差し戻すことも可能である。

【0005】さらに上記「ワークフロー管理システムの有効性について」には、案件処理の流れを任意のタイミングで、各案件単位に変更可能な製品として、株式会社富士通のTeamWARE Flow Ver.1.0L11があげられている。該製品では、上記条件分岐による案件の割り当てだけでなく、作業者が案件の割り当て先を指定することが可能である。

【0006】また<http://www.lotus.com/>にあるLotus cc:Mailでは、全ての作業者が参照することが可能な掲示板が実装されている。該掲示板では、案件を全ての作業者に対して掲示板上で公開することで、作業者が積極的に該案件の処理を引き受けることが可能である。また該案件の処理を該作業者が一人で処理を行うのが困難であると判断した際に、再度該案件を該掲示板に差し戻すことで、他の作業者に該案件の処理を引き継いでもらうことが可能である。

【0007】

【発明が解決しようとする課題】しかし、前記Groupmax WorkflowおよびTeamWARE Flow V.1.0L11においては、特定作業者に割り当て作業が集中し、割り当て作業に時間がかかるという問題点があった。

【0008】さらに、前記cc:Mailの掲示板においては、作業者が他の作業者に案件を割り当てる事ができず、作業者が積極的に該掲示板から案件を引き取っていかなければ、該案件が長期間該掲示板に滞留してしまうという問題点があった。

【0009】

【課題を解決するための手段】上記課題を克服するため、本発明では以下のような方法をとる。

【0010】処理すべき案件の一覧情報とは別に、案件を処理する組織の階層情報を用意する。全ての作業者は組織階層の中のいずれかの部署に属している。各部署には少なくとも一人の責任者が存在する。案件の割り当て先として作業者個人ではなく、部署を指定する事もでき、各部署に割り当てられた案件はその部署の責任者が下位部署または部下または自分自身に割り当てる事ができる。作業者は自分自身に割り当てられた案件以外にも、自分が直接所属する部署やその上位部署に割り当てられた案件も閲覧する事ができる。また、作業者は自分が直接所属する部署やその上位部署に割り当てられた案件を自分自身に割り当てる事ができる。

【0011】

【発明の実施の形態】図1に本発明の第1の実施例における処理手順を、図2にシステム機能構成を、図3にハードウェア構成をそれぞれ示す。図3に示すように、組

組織階層情報(211)、案件データ(212)、案件管理情報(213)は全てサーバ計算機(301)に装備された記憶装置(302)に記憶される。ユーザは対話端末(304)により実現されるUI部(201)からネットワーク(303)を通じて、該サーバ計算機(301)に指示を与える。該指示は該サーバ計算機(301)により実現される表示情報生成部(202)と案件管理情報更新部(203)により処理される。以下、本実施例の処理手順を図1に従って説明する。

【0012】ステップ111では、ユーザが対話端末(304)からシステムにログインする。

【0013】ステップ101では、表示情報生成部(202)において、組織階層情報(211)から前ステップでログインしたユーザを特定し、該ユーザの所属する部署、該ユーザの上位部署、該ユーザ本人に割り当てられた案件を案件管理情報(213)から抽出する。図4に組織階層情報(211)の例を示す。四角形は部署を、矢印は部署間の上下関係を、点線は部署に所属する事を、二重丸は部署の責任者を、丸は部署に所属する作業者を、それぞれ意味する。ここでは最上位部署として部署R(401)が存在し、該最上位部署の直属の下位部署として、部署R-a(402)と部署R-b(403)が存在する。さらに、部署R-aの直属下位部署として部署R-a-1(404)が、部署R-bの直属下位部署として部署R-b-1(405)と部署R-b-2(406)がそれぞれ存在する。また、部署Rには責任者A(411)が、部署R-bには責任者C(412)と作業員G(413)が、それぞれ所属している。図6に案件管理情報(213)の例を示す。案件管理情報は、個々の案件を識別する案件ID欄(601)、案件タイトル欄(602)、現在の担当状況を示す担当欄(603)、これまでの差し戻し履歴を示す差し戻し欄(604)からなる。図6では合計10件の案件が登録されており、案件IDが1の案件(611)は、案件タイトルが「オブジェクトαに関して」、担当が部署R(612)、差し戻し履歴なしである事を示している。また、613は案件ID7の案件の担当が作業員Eであることを、614は案件ID10の案件が既に処理された事を、615は作業員Jと部署R-b-1が案件ID3の案件を差し戻した事を、616は作業員Kが案件ID5の案件を差し戻した事を、それぞれ意味している。

【0014】例えば、組織階層情報(211)が図4で示す状態であり、かつ、案件管理情報(213)が図6で示す状態である時に、部署R-b(403)の責任者C(411)がシステムにログインすると図7に示す案件管理情報が抽出される。701はCが所属する部署の上位部署に割り当てられた案件、702はCが所属する部署に割り当てられた案件、703はC本人に割り当てられた案件である。

【0015】ステップ102では、前ステップで抽出さ

れた案件管理情報が対話端末(304)に表示される。図8に、図7の情報が表示される場合の例を示す。

【0016】ステップ112では、ユーザが前ステップで表示された案件の中から注目する案件を選択する。ここでユーザがログアウトした場合には終了ステップへ進む。

【0017】ステップ103では、前ステップでユーザが選択した案件に対して実行可能な操作の一覧が表示される。例えば、部署R-bの責任者Cが図8中の案件ID1の案件を選択した時に表示される画面例(メニュー)を図9に示す。これは、各部署の責任者が上位部署に割り当てられている案件を選択した時に指示可能な操作として、[詳細表示](901)、[引き取り](902)、[割り当て](903)がある事を示している。また、911は[割り当て]を選択した場合に、さらに選択メニューが現れる事を意味する記号である。

【0018】ステップ113では、ユーザは前ステップで表示された実行可能操作の中から一つを選択し、該案件への該操作を指示する。該指示はUI部(201)により、詳細表示、差し戻し、引き取り、割り当てに分類され、該指示の種別により次ステップが決定される。

【0019】例えば、図9において、ユーザが[詳細表示]を選択した場合にはステップ104へ進み、該案件の詳細が表示される。[引き取り]を選択した場合にはステップ105へ進み、該案件の担当がCに変更される。[割り当て]を選択した場合には、さらに図10に示すように、割り当て先を指定するためのメニューが表示される。ここでは、[自部署](1001)、[下位部署](1002)、[部下](1003)に該案件を割り当てられることが示されている。ここで[自部署]を選択した場合にはステップ105へ進み、該案件の担当がCの所属する部署である部署R-bに変更される。

[下位部署]を選択した場合には、さらに、図11に示すようにCの所属する部署の下位部署を指定するためのメニューが表示される。ここでは、部署[R-b-1](1101)と部署[R-b-2](1102)が表示される。ここで、いずれかの部署を選択した場合にはステップ105へ進み、該案件の担当が該選択部署に変更される。また、図10において、[部下]を選択した場合には、さらに、図12に示すように部下を指定するためのメニューが表示される。ここでは、[E]、[F]、[G]、[J]、[K]、[L]の6人の名前(1201)が表示される。ここで、いずれかの作業員を選択した場合にはステップ105へ進み、該案件の担当が該選択作業員に変更される。

【0020】次に、部署R-bの責任者Cが図8中の案件ID3の案件を選択した時に表示されるメニューを図13に示す。これは、各部署の責任者が自部署に割り当てられている案件を選択した時に指示可能な操作として、[詳細表示](901)、[引き取り](902)、

〔割り当て〕（903）以外に、〔差し戻し〕（1301）が加わる事を示している。ここで、〔詳細表示〕と〔引き取り〕を選択した場合の動作は図9で該項目を選択した場合と全く同じである。〔差し戻し〕を選択した場合にはステップ105へ進み、該案件の差し戻し情報に部署R-bが追加され、担当が該部署の直接の上位部署である部署Rに変更される。〔割り当て〕を選択した場合には、さらに、図14に示すように割り当て先を指定するためのメニューが表示される。ここでは、図9で〔割り当て〕を選択した場合とは違い、割り当て先の候補として〔下位部署〕と〔部下〕だけが表示され、該案件が自部署に割り当てられているのでメニュー項目〔自部署〕は表示されない。ここで、〔下位部署〕、〔部下〕を選択した場合に表示されるメニューは、図10において該メニュー項目を選択する場合と同じである（図15の1501、図16の1601）。

【0021】次に、部署R-bの責任者Cが図8中の案件ID6の案件を選択した時に表示されるメニューを図17に示す。これは、作業員（部署の責任者かどうかには関わらない）が自分に割り当てられている案件を選択した時に指示可能な操作として、〔詳細表示〕（901）、〔差し戻し〕（1301）がある事を示している。該メニュー項目を選択した場合の動作は、図13で同名のメニュー項目を選択した場合と同じである。

【0022】次に、部署の責任者以外の作業員が、自部署または上位部署に割り当てられた案件を選択した時に表示されるメニューを図18に示す。これは該案件選択時に指示可能な操作として、〔詳細表示〕（901）、〔引き取り〕（902）があることを示している。該メニュー項目を選択した場合の動作は、図13で同名のメニュー項目を選択した場合と同じである。

【0023】ステップ104では、ユーザが指定した案件が案件データ蓄積部（212）から検索され、該案件の詳細が表示される。図5に案件データ（212）の例を示す。1件の案件データ（501）は、案件を識別するID（511）と、案件タイトル（512）、発生日（513）、詳細な記述（514）からなる。図19に案件ID1の案件の詳細が表示された例を示す。該案件の詳細の表示後、ステップ112へ戻る。

【0024】ステップ105では、案件管理情報更新部（203）において、ユーザが指定した案件の案件管理情報（213）が更新される。該案件管理情報の更新後、ステップ101へ戻る。

【0025】例えば、組織階層情報（211）が図4で示す状態であり、かつ、案件管理情報（213）が図6で示す状態である時に、部署R-b（403）の責任者C（411）がシステムにログインし、案件ID1の案件に対して「引き取り」を指示した場合、該案件管理情報の該案件に関する部分は図20に示すように更新される。具体的には、該案件の担当がC（2001）に変更

される。他の案件に関する情報に変化はない。同様に、該案件に対して「自部署への割り当て」を指示した時には、該案件管理情報の該案件に関する部分は図21に示すように更新される。具体的には該案件の担当が部署R-b（2101）に変更される。同様に、該案件に対して「下位部署R-b-1への割り当て」を指示した時には、該案件管理情報の該案件に関する部分は図22に示すように更新される。具体的には該案件の担当が部署R-b-1（2201）に変更される。同様に、該案件に対して「部下Eへの割り当て」を指示した時には、該案件管理情報の該案件に関する部分は図23に示すように更新される。具体的には該案件の担当が作業員E（2301）に変更される。次に、該条件下でCが案件ID3の案件に対して「差し戻し」を指示した場合、該案件管理情報の該案件に関する部分は図24に示すように更新される。具体的には該案件の担当が以前の部署R-bの直接の上位部署であるR（2401）に変更され、差し戻し欄に部署R-b（2401）が追加される。

【0026】本実施例によれば、案件の処理をする作業員が、該作業員が所属する部署およびその上位部署に割り当てられた案件を自ら引き取る事により、該案件の処理をより速く適切な作業員に割り当てる事ができる。また、各部署の責任者が案件を該責任者の下位部署または部下に割り当てる事ができるので、案件がどの作業員にも引き取られずに滞留する事を防ぐ事ができる。これらにより、案件の処理をより速く終了させる事ができる。

【0027】図25に本発明第2の実施例における処理手順を示す。以下、本発明第2の実施例の処理手順を図25に従って説明する。ただし、第1の実施例と同一の処理については説明を省略する。

【0028】第1の実施例ではステップ103で、操作対象として単に部署名または作業員名が表示されるだけだったが、第2の実施例では同時に該部署または該作業員に割り当てられている案件の総数も表示される（ステップ2502）。

【0029】ステップ2501では、組織階層情報と該案件管理情報から各部署および各作業員に割り当てられている案件の総数が計算される。例えば、組織階層情報が図4、案件管理情報が図6に示す状態である時、各部署および各作業員に割り当てられている案件の総数は図26に示すようになる。2601は部署名または作業員名を、2602は割り当てられている案件の総数を、それぞれ意味する。ここでは、部署R（2611）に割り当てられている案件の総数はその下位部署のものを含めて9件（2612）であることを示している。

【0030】ステップ2502では、ステップ103と同様に、選択された案件に対して実行可能な操作の一覧と該操作の対象が表示されるが、該操作対象を表示する際に単に部署名または作業員名が表示されるだけでなく、ステップ2501での結果を利用して、該部署また

は該作業者が割り当てられている案件の総数も同時に表示される。図27に部署に割り当てられた案件の総数が表示される例を、図28に作業者に割り当てられた案件の総数が表示される例を、それぞれ示す。図27と図28は、実施例1ではそれぞれ図11と図12に対応する部分である。2701は自部署（すなわち部署R-b）および該部署の下位部署（すなわち部署R-b-1と部署R-b-2）と、自部署および該部署の下位部署に所属する作業者に割り当てられている案件の総数が7件であることを、同様に2702は部署R-b-1と該部署の所属する作業者に割り当てられている案件の総数が3件であることを、それぞれ示している。また、2801は作業者Eに割り当てられている案件の総数が1件であることを示している。

【0031】本実施例によれば、各部署の責任者が案件を自部署または下位部署または部下に割り当てる際に、該部署または該部下が割り当てられている案件の総数を参照する事により、特定の部署や特定の作業者に案件の割り当てが集中する事を防ぐ事ができる。これによりより適切な作業者への案件の割り当てが可能となる。

【0032】

【発明の効果】第1の発明によれば、案件の処理をする作業者が、該作業者が所属する部署およびその上位部署に割り当てられた案件を自ら引き取る事により、該案件の処理をより速く適切な作業者に割り当てる事ができる。また、各部署の責任者が自部署およびその上位部署に割り当てられた案件を下位部署および部下に割り当てる事により、案件がどの作業者にも引き取られずに滞留することを防ぐ事ができる。これらにより、処理すべき案件が適切な作業者に割り当てられる確率が高くなり、かつ、案件が滞留する確率が低くなる事から、案件の処理にかかる時間を減少させることができる。

【0033】第2の発明によれば、各部署の担当者が案件を自部署または下位部署または部下に割り当てる際に、該部署または該作業者に既に割り当てられている案件の総数を参照する事により、特定の部署や特定の作業者に案件の割り当てが集中する事を防ぐ事ができ、より適切な部署または作業者への案件の割り当てを行う事ができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】第1の実施例の処理手順である。

【図2】システム機能構成図である。

【図3】ハードウェア構成図である。

【図4】組織階層図である。

【図5】案件データの例である。

【図6】案件管理情報の例である。

【図7】作業者Cがシステムにログインした時に抽出される関連案件の一覧である。

【図8】関連案件の表示例である。

【図9】部署の責任者が上位部署に割り当てられた案件

を選択した時の実行可能操作一覧である。

【図10】図9で「割り当て」を選択した時に表示される割り当て先候補一覧である。

【図11】図10で「下位部署」を選択した時に表示される下位部署名一覧である。

【図12】図10で「部下」を選択した時に表示される部下名一覧である。

【図13】部署の責任者が自部署に割り当てられた案件を選択した時の実行可能操作一覧である。

【図14】図13で「割り当て」を選択した時に表示される割り当て先候補一覧である。

【図15】図14で「下位部署」を選択した時に表示される下位部署名一覧である。

【図16】図14で「部下」を選択した時に表示される部下名一覧である。

【図17】作業者が自分に割り当てられた案件を選択した時の実行可能操作一覧である。

【図18】部署の責任者ではない作業者が自部署または上位部署に割り当てられた案件を選択した時の実行可能操作一覧である。

【図19】案件ID1の案件の詳細を表示した例である。

【図20】作業者Cが案件ID1の案件を引き取った時の案件管理情報の変化である。

【図21】作業者Cが案件ID1の案件を自部署に割り当てた場合の案件管理情報の変化である。

【図22】作業者Cが案件ID1の案件を下位部署（部署R-b-1）に割り当てた時の案件管理情報の変化である。

【図23】作業者Cが案件ID1の案件を部下Eに割り当てた時の案件管理情報の変化である。

【図24】作業者Cが案件ID3の案件を差し戻した時の案件管理情報の変化である。

【図25】第2の実施例の処理手順である。

【図26】各部署および各作業者に割り当てられている案件の総数を計算した結果である。

【図27】各部署に割り当てられている案件の総数も表示した例である。

【図28】各作業者に割り当てられている案件の総数も表示した例である。

【符号の説明】

101…組織階層図から作業者を特定し、関連案件を抽出するステップ、

102…抽出された案件を表示するステップ、

103…案件に対する実行可能操作と該操作の対象を表示するステップ、

104…案件の詳細を表示するステップ、

105…案件管理情報を指示に従って更新するステップ、

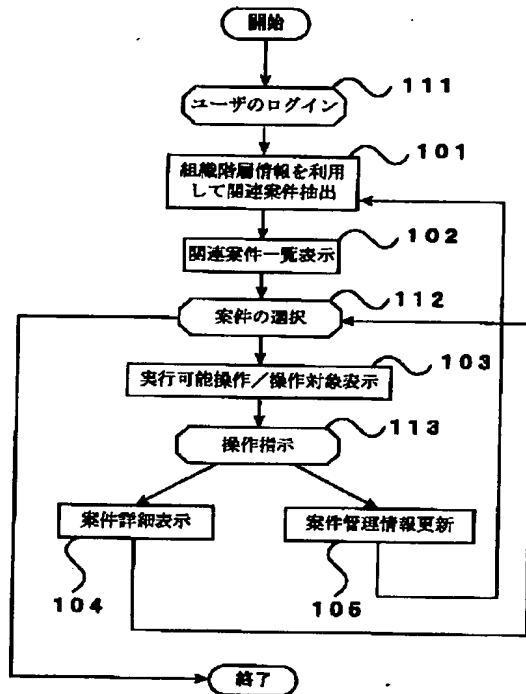
111…入力装置から作業者IDを得るステップ、

- 112…案件一覧から案件を選択するステップ、
113…選択した案件に対する操作と操作対象と選択す

るステップ。

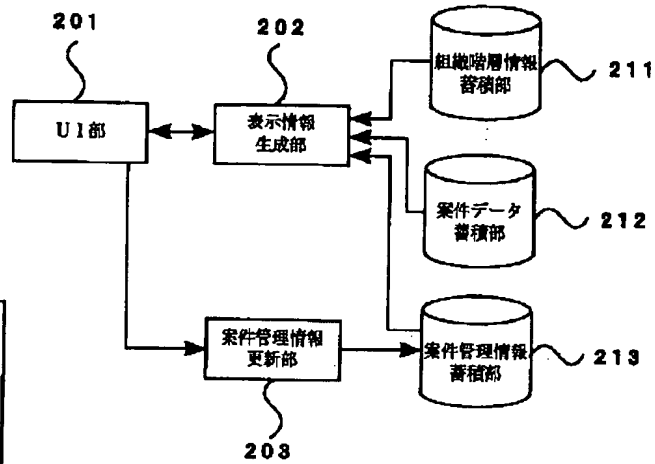
【図1】

図1



【図2】

図2

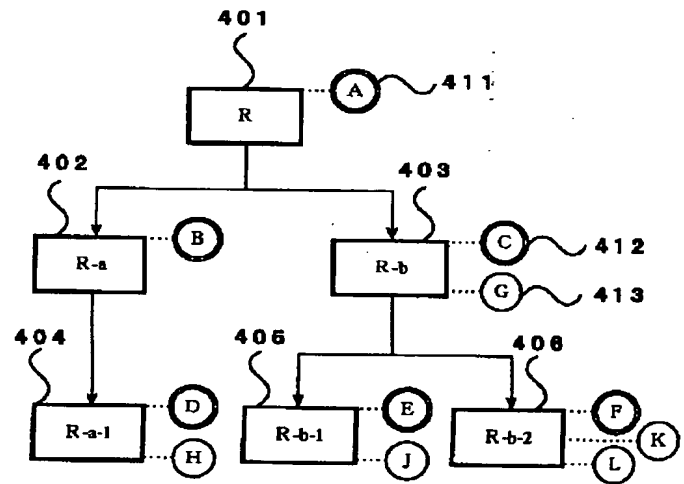
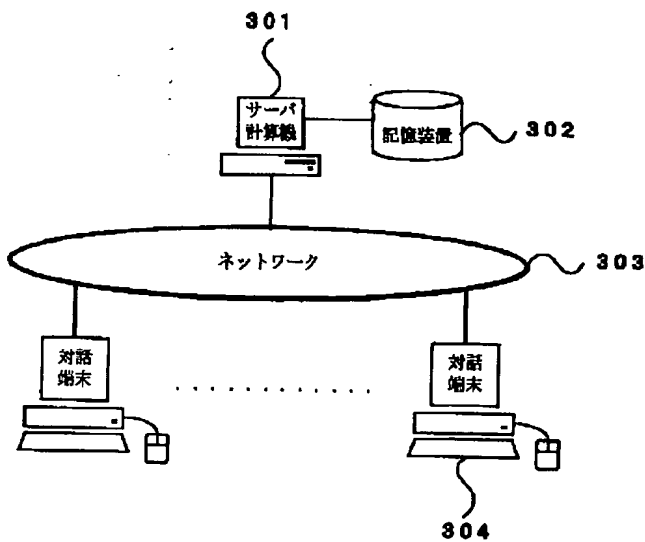


【図4】

図4

【図3】

図3



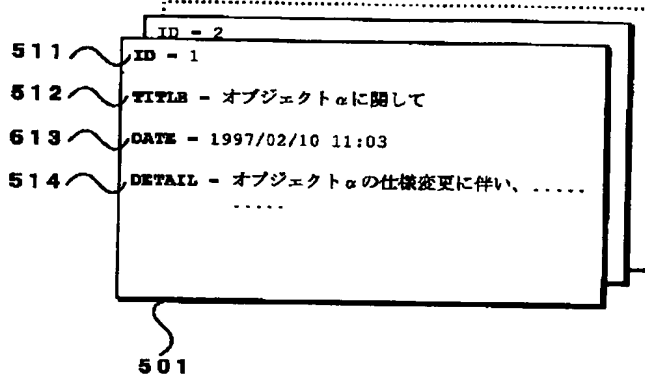
【図7】

図7

ID	タイトル	担当	差し戻し
701	オブジェクトαに関して	R	
702	オブジェクトβに関して	R-b	J, R-b-1
703	オブジェクトβの選択状況に関して	C	

【図5】

図5



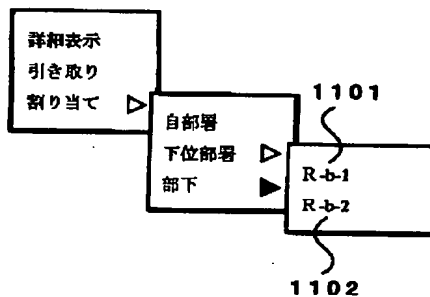
【図8】

図8

ID	タイトル	担当	差し戻し
1	オブジェクトαに関して	R	
3	オブジェクトβに関して	R-b	J, R-b-1
4	オブジェクトβの進捗状況に関して	C	

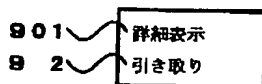
【図11】

図11



【図18】

図18



【図6】

図6

601	602	603	604
10	タイトル	担当	差し戻し
611	1 オブジェクトαに関して	R	612
	2 オブジェクトαの関数 1a1に関して	R-a	
	3 オブジェクトβに関して	R-b	J, R-b-1 615
	4 オブジェクトβの関数 1a1に関して	R-b-1	
	5 オブジェクトβの関数 1a1に関して	R-b-1	K 616
	6 オブジェクトβの進捗状況に関して	C	
	7 オブジェクトβのテスト計画に関して	R	613
	8 オブジェクトβのテストデータに関して	J	
	9 オブジェクトβの関数 1a1に関して	K	
	10 オブジェクトαの関数 1a1に関して	*	

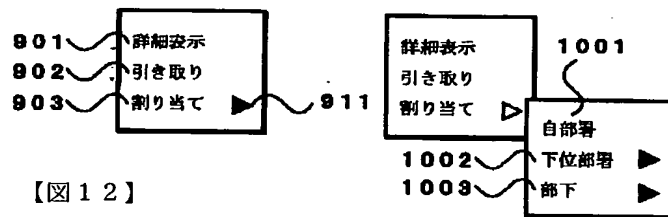
614

【図9】

図9

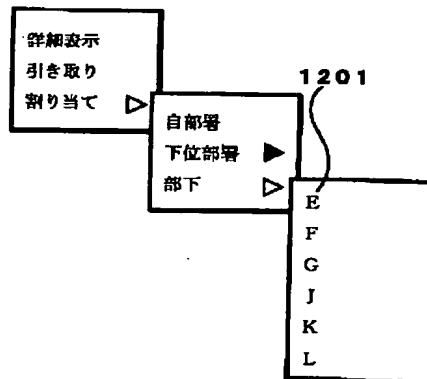
【図10】

図10



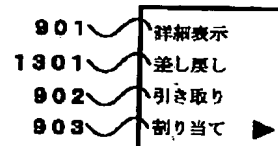
【図12】

図12



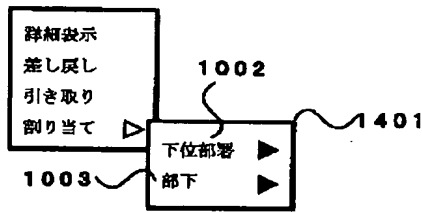
【図13】

図13



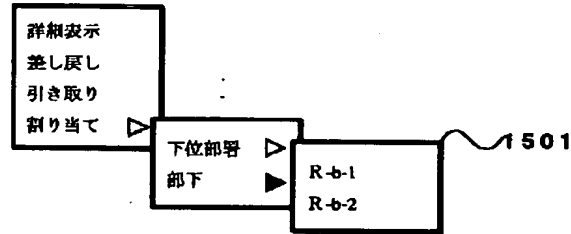
【図14】

図14



【図15】

図15



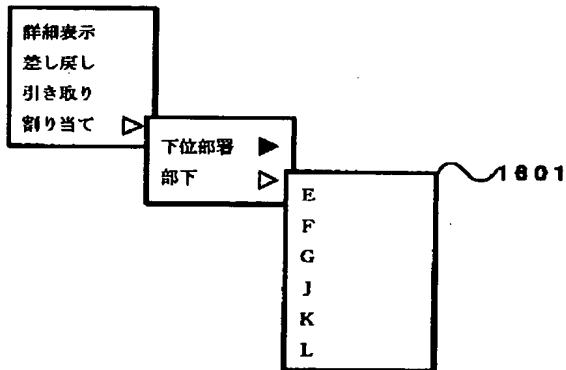
【図17】

図17



【図16】

図16



【図19】

図19

案件詳細表示	
案件ID	1
案件タイトル	オブジェクトaに関して
発生日	1997/02/10 11:03
詳細説明	オブジェクトaの仕様変更に伴い、.....

【図20】

図20

ID	タイトル	担当	差し戻し
1	オブジェクトaに関して	C	;

2001

【図21】

図21

ID	タイトル	担当	差し戻し
1	オブジェクトaに関して	R-b	

2101

【図22】

図22

ID	タイトル	担当	差し戻し
1	オブジェクトaに関して	R-b-1	

2201

【図23】

図23

ID	タイトル	担当	差し戻し
1	オブジェクトaに関して	E	

2301

【図24】

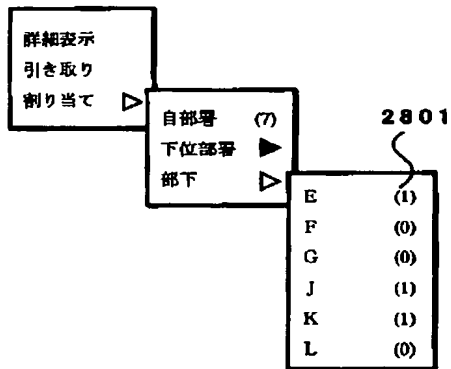
図24

ID	タイトル	担当	差し戻し
1	オブジェクトβに関して	R	J, R-b-1 R-1

2401 2402

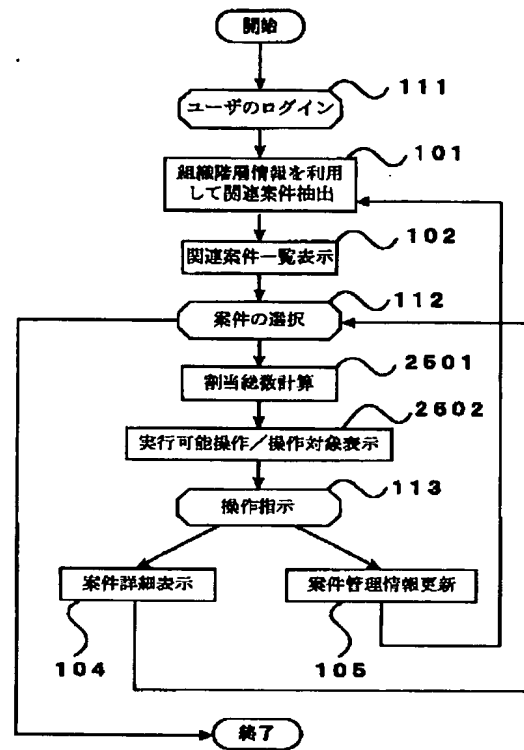
【図28】

図28



【図25】

図25



【図26】

図26

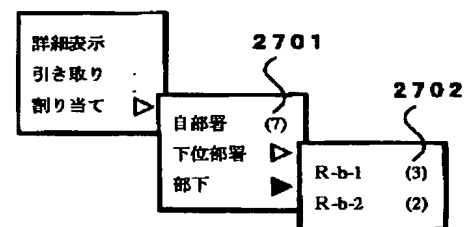
部署名/作業者名	割り当て総数
R	9
R-a	1
R-a-1	0
R-b	7
R-b-1	3
R-b-2	2
A	0
B	0
C	1
D	0
E	1
F	0
G	0
H	0
J	1
K	1
L	0

2601 2602

2611 2612

【図27】

図27



フロントページの続き

(72)発明者 島袋 潤
神奈川県川崎市麻生区王禅寺1099番地 株
式会社日立製作所システム開発研究所内

(72)発明者 小泉 忍
神奈川県川崎市麻生区王禅寺1099番地 株
式会社日立製作所システム開発研究所内